

市民性形成と言語文化教育

現代の世界は、国や言語、文化の境を越えて様々な背景を持った人々が共に生きています。そうした状況を見つめながら、社会を創造していくこと、主権者であること、複数のことばや文化を持つこと、多様な人間が共生すること、誰もが公正公平に生きる権利を持つこと、社会をよりよいものにしていくことを実現していくための教育として、市民性形成の教育が存在しています。言語文化教育研究会もこれまでこの分野に関する研究と実践の活動を推進してきました。

しかし、こうした市民性形成の観点は重要であるがゆえに、ときに教育実践や研究の多様な分野でそれぞれに取り込まれ、語られていきます。例えば、日本では、市民性教育は、学校教育における主権者教育として、また人権教育として、地域社会における社会づくりの教育として、グローバル社会における言語教育として語られてきました。しかし、冒頭のような視点に立ち返れば、市民性教育は本来総合的な概念であり、人と社会、ことば、文化をトータルに捉え、よりよい未来を創造していくための教育であるはずで

このたびの言語文化教育研究会第5回記念年次大会では、「市民性 × 教育」をキーワードとした学際的協働を一つの主眼に捉え、これまで多様な領域で活躍されてきた市民性教育の論者・実践者が互いに語る中で、それぞれの領域で語られてきた市民性教育の意味を広げ、問い直していきます。(企画担当：南浦涼介、細川英雄、福島青史)

発表者募集

応募締切	2018年11月4日(日) 23:59(日本時間)
応募先	annual@alce.jp(年次大会実行委員会)
開催日程	2019年3月9日(土)、3月10日(日)
開催会場	早稲田大学早稲田キャンパス(3号館)
結果通知	2018年12月下旬
応募資格	言語文化教育研究会の会員であること
応募内容	言語・文化・教育に関わるもの(大会テーマ以外の内容も応募可能)
カテゴリー	パネルセッション(120分) 口頭発表(30分(発表20分+質疑10分)、40分(発表30分+質疑10分)) ポスター発表(発表時間60分・掲示は大会期間中) フォーラム(100分) *当日会場に来られない方のために、口頭発表カテゴリーに遠隔発表枠(30分)を設置します。 *各カテゴリーの詳細は、大会ウェブサイトにてご確認ください。
応募方法詳細	http://alce.jp/annual/
お問い合わせ	annual@alce.jp(年次大会実行委員会事務局)

大会シンポジウム(3月10日(日) 10:00-12:30)

タイトル	市民性形成と言語文化教育－価値観の異なる多様な人たちと共に生きるために
シンポジスト	オードリー・オスラー(リーズ大学・サウスイースト・ノルウェー大学)・ 小玉重夫(東京大学)・細川英雄(言語文化教育研究所)
司会	福島青史(早稲田大学)

共催：日本シティズンシップ教育フォーラム